

研究課題：日本および中国の循環器疾患における歯周病の関与を解明する臨床研究

研究者名：鈴木淳一¹⁾、青山典生²⁾、王冬青³⁾、和泉雄一²⁾

所属：¹⁾東京大学先端臨床医学開発講座、²⁾東京医科歯科大学歯周病学分野、³⁾首都医科大学附属北京口腔医院

目的：歯周病が循環器疾患の発症リスクとなることが報告されているが、これらの関連を解明する研究は始まったばかりである。我々は基礎研究において、歯周病菌感染が大動脈瘤、動脈硬化、心筋梗塞、心肥大、心筋炎、腎不全を悪化させる事を報告した。また、臨床試験において、虚血性心疾患、糖尿病合併腎不全における脳梗塞、大動脈瘤、マルファン症候群において歯周病が病態を悪化させる事も報告した。しかし、日本及び中国間で各種循環器疾患の病態における歯周病原細菌感染がどのように関与しているかを比較検討した報告はない。各種循環器疾患において歯周病原細菌感染がどのように関与しているかを、1000例以上の日本および中国の患者において明らかにする事が本臨床試験全体の目的である。本報告は、2国間の循環器疾患患者調査に先立ち、循環器疾患を有しない対照患者の比較検討を日本及び中国間で実施した途中経過をまとめたものである。

方法：平成26年4月から平成27年3月までに東京医科歯科大学歯周病科調査研究（日本）に参加した歯周状態以外健常な23人、および首都医科大学附属北京口腔医院調査研究（中国）に参加した歯周状態以外健常な35人について、口腔内状況について調査した。口腔内診査項目は残存歯数、代表歯のプロロービングポケット深さ（PPD）、およびPPDが5mm以上の歯数の総検査歯数に対する割合であり、それぞれ平均+SDを計算した。2群間で比較検討はStudent t testを用い、 $P < 0.05$ を有意差ありとした。本試験は東京医科歯科大学の倫理審査委員会の承認を得て実施されている。

結果

1. 残存歯数

残存歯数は日本および中国両群で同様であった。

2. 平均PPD

平均PPDにおいては、中国群が日本群に比して有意に大きい値を示した。

3. PPDが5mm以上の歯数の割合

PPDが5mm以上の歯数の総検査歯数に対する割合は、中国群が日本群に比して有意に大きい値を示した。

結語：比較的若年の歯周状態以外健常な試験参加者においては、日中両群において残存歯数は同等であったが、PPDは中国で有意に増悪していた。歯磨き等の生活習慣や歯科受診率などの差異が影響していることが示唆され、さらなる調査研究が必要である。